

業況 DI は 4.6 ポイントの低下

～平成 31 年 1-3 月期中小企業景気動向調査結果～

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）では、四半期ごとに県内中小企業の景気動向等を把握するため、県内中小企業 2,000 社を対象とした「中小企業景気動向調査」を実施しています。

平成 31 年 1-3 月期の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

◇要 旨

- 総合の業況 DI は、前期比 4.6 ポイント低下の▲17.1 となりました。
- 経営状況では、売上 DI は前期比 13.5 ポイント低下の▲20.2、また、採算 DI は同 6.3 ポイント低下の▲27.7 となりました。
- 業種別の業況 DI では、製造業は前期比 10.6 ポイント低下の▲4.5 となりました。中分類では、一般機械は同 5.8 ポイント低下の 9.0、電気機械は同 6.7 ポイント低下の▲10.4、輸送用機械は同 6.5 ポイント低下の▲3.4 となりました。
- 建設業の業況 DI は、前期比 6.0 ポイント上昇の 14.8 となりました。
- 商業・サービス業の業況 DI は、前期比 3.3 ポイント低下の▲34.1 となりました。商業・サービス業の内訳を見ますと、卸売業は同 8.5 ポイント低下の▲26.5、小売業は同 4.2 ポイント低下の▲52.6、飲食店は同 4.2 ポイント上昇の▲37.5、サービス業は同 4.1 ポイント低下の▲9.9 となりました。
- 今後の総合の業況 DI を見ると、3 ヶ月後は現在比 5.5 ポイント低下の▲22.6、半年後は同 11.3 ポイント低下の▲28.4 を見込んでいます。

▼本件に関するお問い合わせ先
(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)
(Kanagawa Industrial Promotion Center)
事業部経営総合相談課 藤田
TEL 045-633-5201 FAX 045-633-5194
URL <http://www.kipc.or.jp/> E-mail: soudan@kipc.or.jp

平成 31 年 1- 3 月期中小企業景気動向調査結果

業況 DI は 4.6 ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の平成 31 年 1- 3 月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：平成 31 年 2 月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業 2,000 社
- ・回答数（率）：1,018 社（50.9%） ＊詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象への郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）＊による分析

※ 業況等について、「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	360	65.5%
建設業	250	136	54.4%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	522	43.5%
合計	2,000	1,018	50.9%

2. 調査結果

（1）総合

	平成 30 年			平成 31 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
業況 DI	▲15.9	▲17.0	▲12.5	▲17.1	▲22.6	▲28.4
売上 DI	▲15.8	▲12.9	▲6.7	▲20.2	—	—
採算 DI	▲20.7	▲22.1	▲21.4	▲27.7	—	—

総合の業況 DI は、前期比 4.6 ポイント低下の▲17.1 となった。

経営状況では、売上 DI は前期比 13.5 ポイント低下の▲20.2、また、採算 DI は同 6.3 ポイント低下の▲27.7 となった。

今後の業況 DI を見ると、3 ヶ月後は現在比 5.5 ポイント低下の▲22.6、半年後は同 11.3 ポイント低下の▲28.4 を見込んでいる。

(2) 業種別特徴

<製造業>

	平成 30 年			平成 31 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
業況 DI	3.0	0.8	6.1	▲4.5	▲19.5	▲23.0
売上 DI	▲1.4	0.3	5.8	▲16.7	—	—
採算 DI	▲7.4	▲6.6	▲10.9	▲22.2	—	—

製造業の今期の業況 DI は、前期比 10.6 ポイント低下の▲4.5 となった。経営状況では、売上 DI は、前期比 22.5 ポイント低下の▲16.7、採算 DI は同 11.3 ポイント低下の▲22.2 となった。「人手不足により、受注機会を損失している。」といった声が聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 15.0 ポイント低下の▲19.5、半年後は同 18.5 ポイント低下の▲23.0 を見込んでいる。「イギリスの EU 離脱や中国の景気動向により、不安定要因があり、先の状況が不明。国内でも消費税のアップを控え、不安要因だけが目立ってきている。」「先に見える数物の引き合いが減少しており、非常に不安定な状態。他業種にもアプローチをおこなっているが、利益の出せる良い案件は少ない。自社の強みを生かして利益を出せる仕事を確保する必要あり。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況 DI は以下の通り。

	平成 30 年			平成 31 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
一般機械	24.4	13.8	14.8	9.0	▲17.2	▲23.3
電気機械	▲14.9	▲18.1	▲3.7	▲10.4	▲20.8	▲22.7
輸送用機械	▲3.0	6.3	3.1	▲3.4	▲20.7	▲27.1
その他	3.9	0.8	7.8	▲10.6	▲19.7	▲21.2

中分類で見ると、一般機械は前期比 5.8 ポイント低下の 9.0、電気機械は同 6.7 ポイント低下の▲10.4、輸送用機械は同 6.5 ポイント低下の▲3.4 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は一般機械が現在比 26.2 ポイント低下の▲17.2、電気機械が同 10.4 ポイント低下の▲20.8、輸送用機械は同 17.3 ポイント低下の▲20.7、半年後は一般機械が同 32.3 ポイント低下の▲23.3、電気機械が同 12.3 ポイント低下の▲22.7、輸送用機械は同 23.7 ポイント低下の▲27.1 を見込んでいる。

<建設業>

	平成 30 年			平成 31 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
業況 DI	0.0	2.3	8.8	14.8	▲4.5	▲16.4
売上 DI	▲15.4	1.6	9.4	15.4	—	—
採算 DI	▲9.6	▲9.4	▲1.4	5.2	—	—

建設業の今期の業況 DI は、前期比 6.0 ポイント上昇の 14.8 となった。経営状況では、売上 DI は前期比 6.0 ポイント上昇の 15.4、採算 DI は同 6.6 ポイント上昇の 5.2 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 19.3 ポイント低下の▲4.5、半年後は同 31.2 ポイント低下の▲16.4 を見込んでいる。「今は消費税 10%に対する駆け込みが多いのだと思いますが、その後は悪くなると思っています。」「受注のためには、利益を下げなければ厳しい状況。見通しは、人手不足、材料値上げで、良いとは思えない。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	平成 30 年			平成 31 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
業況 DI	▲32.7	▲34.6	▲30.8	▲34.1	▲29.4	▲35.6
売上 DI	▲25.9	▲26.1	▲19.6	▲32.2	—	—
採算 DI	▲32.7	▲36.5	▲34.0	▲40.0	—	—

商業・サービス業の業況 DI では、前期比 3.3 ポイント低下の▲34.1 となった。

経営状況では、売上 DI が前期比 12.6 ポイント低下の▲32.2、採算 DI は同 6.0 ポイント低下の▲40.0 となった。「採用難による人手不足、時給上昇により利益に影響が出始めている。」「カードの使用が増えているので、カード手数料の負担が多くなっている。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 4.7 ポイント上昇の▲29.4、半年後は同 1.5 ポイント低下の▲35.6 を見込んでいる。「材料費の値上がり分を代金に加算して補っています。今の所影響はないようです。得意先の方が亡くなったり、高齢化が問題になると思います。」「業種としては天候に左右されることが多くどうにもならないこともあります。一喜一憂することなくネット通販も視野に入れて、取り組みを考えています。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の業種別の業況 DI は以下の通り。

	平成 30 年			平成 31 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
卸売業	▲23.4	▲21.4	▲18.0	▲26.5	▲32.0	▲32.0
小売業	▲45.8	▲48.0	▲48.4	▲52.6	▲50.7	▲54.0
飲食店	▲23.4	▲36.8	▲41.7	▲37.5	▲25.8	▲27.9
サービス業	▲22.9	▲20.1	▲5.8	▲9.9	2.1	▲11.1

業種別では、卸売業は前期比 8.5 ポイント低下の▲26.5、小売業は同 4.2 ポイント低下の▲52.6、飲食店は同 4.2 ポイント上昇の▲37.5、サービス業は同 4.1 ポイント低下の▲9.9 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後では卸売業が現在比 5.5 ポイント低下の▲32.0、小売業は同 1.9 ポイント上昇の▲50.7、飲食店は同 11.7 ポイント上昇の▲25.8、サービス業は同 12.0 ポイント上昇の 2.1、半年後では卸売業が同 5.5 ポイント低下の▲32.0、小売業は同 1.4 ポイント低下の▲54.0、飲食店は同 9.6 ポイント上昇の▲27.9、サービス業は同 1.2 ポイント低下の▲11.1 を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		平成 30 年			平成 31 年		
		4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
中規模	業況 DI	▲8.5	▲12.2	▲8.5	▲12.1	▲16.9	▲23.8
	売上 DI	▲11.0	▲9.7	▲0.2	▲14.8	—	—
	採算 DI	▲18.6	▲23.0	▲22.3	▲28.2	—	—
小規模	業況 DI	▲24.0	▲22.6	▲17.1	▲23.0	▲29.4	▲33.9
	売上 DI	▲21.1	▲16.5	▲14.0	▲26.6	—	—
	採算 DI	▲23.1	▲21.0	▲20.5	▲27.1	—	—

規模別の業況 DI は、中規模企業は前期比 3.6 ポイント低下の▲12.1、小規模企業は同 5.9 ポイント低下の▲23.0 となった。

経営状況では、中規模企業は売上 DI が前期比 14.6 ポイント低下の▲14.8、採算 DI が同 5.9 ポイント低下の▲28.2、小規模企業は売上 DI が同 12.6 ポイント低下の▲26.6、採算 DI が同 6.6 ポイント低下の▲27.1 となった。

今後の業況 DI については、中規模企業は 3 ヶ月後が現在比 4.8 ポイント低下の▲16.9、半年後が同 11.7 ポイント低下の▲23.8、小規模企業は 3 ヶ月後が同 6.4 ポイント低下の▲29.4、半年後が同 10.9 ポイント低下の▲33.9 を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況 DI）

	平成 30 年			平成 31 年		
	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期	4-6 月期 見込	7-9 月期 見込
横浜	▲15.6	▲12.0	▲14.9	▲16.0	▲22.0	▲31.5
川崎	▲12.6	▲21.9	▲10.0	▲16.8	▲21.2	▲25.6
横須賀	▲16.5	▲22.4	▲17.0	▲22.0	▲32.1	▲32.4
平塚	▲9.1	▲15.0	▲12.1	▲17.3	▲18.1	▲27.9
藤沢	▲17.2	▲17.1	▲18.4	▲24.0	▲24.7	▲32.3
相模原	▲15.8	▲7.4	▲4.2	▲11.1	▲23.6	▲28.4
厚木	▲7.1	▲11.0	▲3.8	▲1.8	▲14.8	▲20.4
足柄上・西湘	▲33.9	▲34.7	▲16.5	▲30.2	▲26.0	▲25.8

今期の地区別の業況 DI は、厚木地区（前期比 2.0 ポイント上昇の▲1.8）の 1 地区のみで上昇となり、横浜地区（同 1.1 ポイント低下の▲16.0）、川崎地区（同 6.8 ポイント低下の▲16.8）、横須賀地区（同 5.0 ポイント低下の▲22.0）、平塚地区（同 5.2 ポイント低下の▲17.3）、藤沢地区（同 5.6 ポイント低下の▲24.0）、相模原地区（同 6.9 ポイント低下の▲11.1）、足柄上・西湘地区（同 13.7 ポイント低下の▲30.2）の 7 地区で低下となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は、足柄上・西湘地区（現在比 4.2 ポイント上昇の▲26.0）の 1 地区のみで上昇となり、横浜地区（同 6.0 ポイント低下の▲22.0）、川崎地区（同 4.4 ポイント低下の▲21.2）、横須賀地区（同 10.1 ポイント低下の▲32.1）、平塚地区（同 0.8 ポイント低下の▲18.1）、藤沢地区（同 0.7 ポイント低下の▲24.7）、相模原地区（同 12.5 ポイント低下の▲23.6）、厚木地区（同 13.0 ポイント低下の▲14.8）の 7 地区で低下となった。

半年後は、足柄上・西湘地区（同 4.4 ポイント上昇の▲25.8）の 1 地区のみで上昇となり、横浜地区（同 15.5 ポイント低下の▲31.5）、川崎地区（同 8.8 ポイント低下の▲25.6）、横須賀地区（同 10.4 ポイント低下の▲32.4）、平塚地区（同 10.6 ポイント低下の▲27.9）、藤沢地区（同 8.3 ポイント低下の▲32.3）、相模原地区（同 17.3 ポイント低下の▲28.4）、厚木地区（同 18.6 ポイント低下の▲20.4）の 7 地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

（公財）神奈川産業振興センター（KIP）

（Kanagawa Industrial Promotion Center）

事業部経営総合相談課 藤田

TEL:045-633-5201 FAX:045-633-5194

URL <http://www.kipc.or.jp/> E-mail:soudan@kipc.or.jp

景気動向調査 (平成31年1月～3月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		360	136	98	214	67	143	522	1018
業況判断	現在の業況	-4.5	14.8	-26.5	-52.6	-37.5	-9.9	-34.1	-17.1
	3ヶ月後の業況	-19.5	-4.5	-32.0	-50.7	-25.8	2.1	-29.4	-22.6
	半年後の業況	-23.0	-16.4	-32.0	-54.0	-27.9	-11.1	-35.6	-28.4
経営状況	売上	-16.7	15.4	-32.7	-40.7	-45.5	-11.5	-32.2	-20.2
	採算	-22.2	5.2	-29.6	-45.8	-50.7	-33.3	-40.0	-27.7
	引き合い／客数	-11.7	3.8	-9.2	-43.9	-37.9	-18.3	-29.6	-18.9
	単価	-5.9	5.2	-15.3	-37.7	-29.9	-16.5	-26.7	-15.1
	仕入価格	-51.7	-36.3	-45.9	-39.2	-73.1	-18.8	-39.4	-43.4
	資金繰り	-14.3	-4.5	-20.4	-32.4	-31.8	-14.0	-25.0	-18.5
	残業	-11.2	9.7	-10.2	-16.7	-18.8	-19.6	-16.5	-11.1
	設備稼働	-12.6	4.1	-	-	-	-	-	-8.3
前期経営実績	売上水準	7.8	12.5	-15.3	-39.0	-39.4	-12.1	-27.2	-9.5
	利益水準	16.4	18.0	6.1	-27.4	-18.5	-10.6	-15.3	0.4
	在庫	6.4	-0.8	9.4	8.1	4.6	-32.8	-3.0	0.6
	投資	1.7	-5.5	-5.3	-20.4	-1.5	-26.2	-16.8	-8.8
	雇用状況	-32.0	-57.9	-20.6	-15.5	-39.4	-19.3	-20.6	-29.7

(注)DI(Diffusion Index)：各項目ごとのプラス要素の比率からマイナス要素の比率を差し引いた数値

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (平成30年10月～12月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		362	138	101	222	72	138	533	1033
業況判断	現在の業況	6.1	8.8	-18.0	-48.4	-41.7	-5.8	-30.8	-12.5
	3ヶ月後の業況	-3.9	9.8	-30.0	-46.8	-40.3	3.7	-29.7	-15.4
	半年後の業況	-10.4	-3.8	-32.0	-49.5	-39.4	-8.8	-34.8	-22.0
経営状況	売上	5.8	9.4	-4.0	-31.7	-27.8	-6.3	-19.6	-6.7
	採算	-10.9	-1.4	-21.8	-34.5	-52.1	-32.6	-34.0	-21.4
	引き合い／客数	6.1	18.8	-5.0	-37.2	-29.6	-12.3	-23.5	-7.4
	単価	-7.2	2.2	0.0	-27.3	-20.8	-25.7	-20.8	-12.9
	仕入価格	-52.1	-44.2	-55.0	-47.9	-76.4	-23.0	-46.8	-48.3
	資金繰り	-10.0	1.4	-20.8	-35.2	-34.7	-15.9	-27.4	-17.4
	残業	2.2	3.6	-1.0	-12.1	-9.9	-18.2	-11.3	-4.5
	設備稼働	-0.3	5.3	-	-	-	-	-	1.2
前期経営実績	売上水準	5.0	-1.4	-18.8	-46.8	-40.3	-11.0	-31.5	-14.7
	利益水準	18.3	15.9	-1.0	-32.7	-27.8	-14.1	-21.2	-2.3
	在庫	5.5	-0.8	20.0	1.8	1.4	-28.9	-2.3	0.6
	投資	0.0	2.3	-1.0	-18.4	-13.0	-23.5	-15.8	-7.8
	雇用状況	-31.5	-57.8	-20.0	-14.2	-35.2	-11.8	-17.5	-27.8

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		194	166	65	71	291	231	550	468
業況判断	現在の業況	-3.6	-5.5	20.3	9.9	-24.9	-45.8	-12.1	-23.0
	3ヶ月後の業況	-21.4	-17.3	6.3	-14.5	-19.1	-42.7	-16.9	-29.4
	半年後の業況	-22.4	-23.8	-10.9	-21.4	-27.8	-45.4	-23.8	-33.9
経営状況	売上	-14.9	-18.7	20.0	11.3	-22.6	-44.2	-14.8	-26.6
	採算	-22.2	-22.3	9.2	1.4	-40.6	-39.3	-28.2	-27.1
	引き合い／客数	-13.9	-9.0	7.9	0.0	-20.3	-41.3	-14.8	-23.7
	単価	-4.1	-7.9	10.8	0.0	-23.3	-31.1	-12.5	-18.2
	仕入価格	-51.5	-51.8	-33.8	-38.6	-36.7	-42.8	-41.7	-45.4
	資金繰り	-12.0	-17.0	1.6	-10.0	-18.3	-33.5	-13.7	-24.1
	残業	-13.5	-8.4	18.5	1.4	-14.9	-18.6	-10.5	-11.9
	設備稼働	-11.5	-13.9	7.9	0.0	-	-	-6.7	-10.2
前期経営実績	売上水準	12.9	1.8	21.5	4.2	-14.5	-43.2	-0.5	-20.0
	利益水準	25.3	6.0	23.1	13.2	-6.6	-26.4	8.2	-8.9
	在庫	10.6	1.3	-5.0	3.4	-4.6	-0.9	0.8	0.5
	投資	2.1	1.2	-3.2	-7.8	-11.2	-23.8	-5.6	-12.5
	雇用状況	-36.6	-26.7	-64.6	-51.5	-24.4	-15.8	-33.5	-25.1

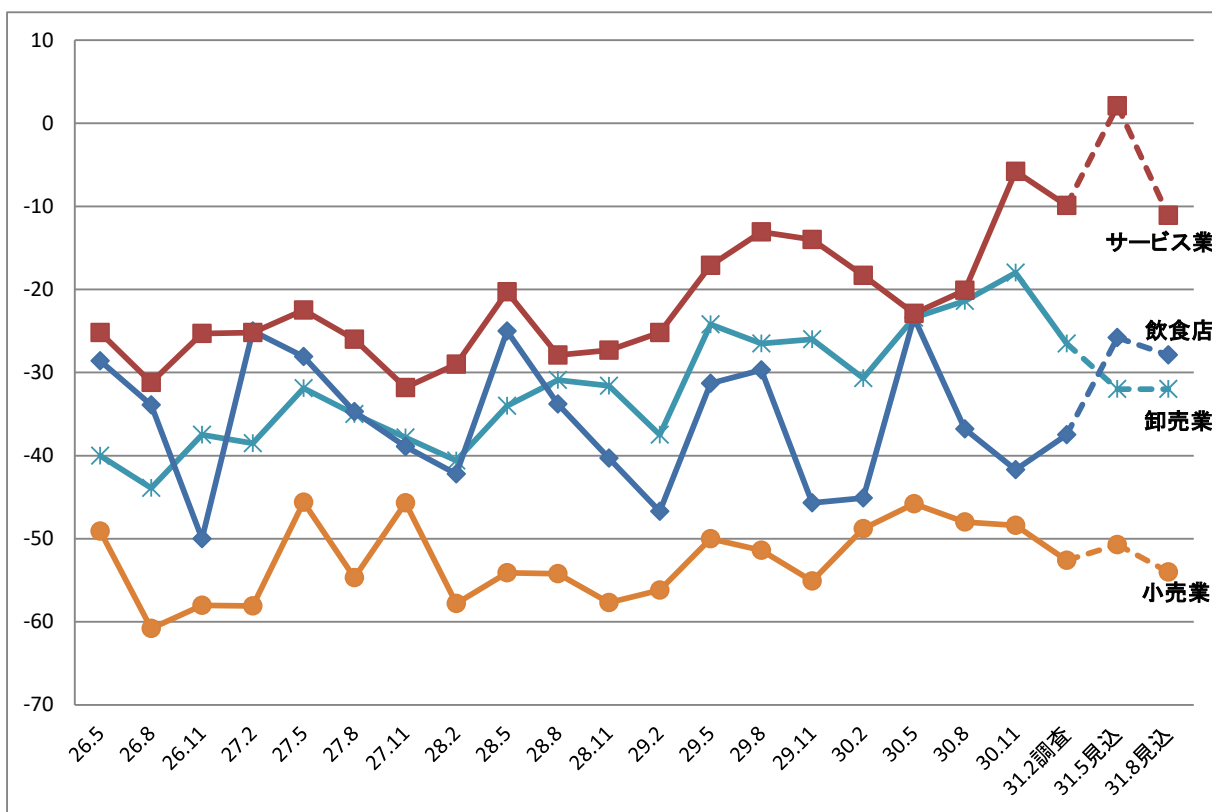
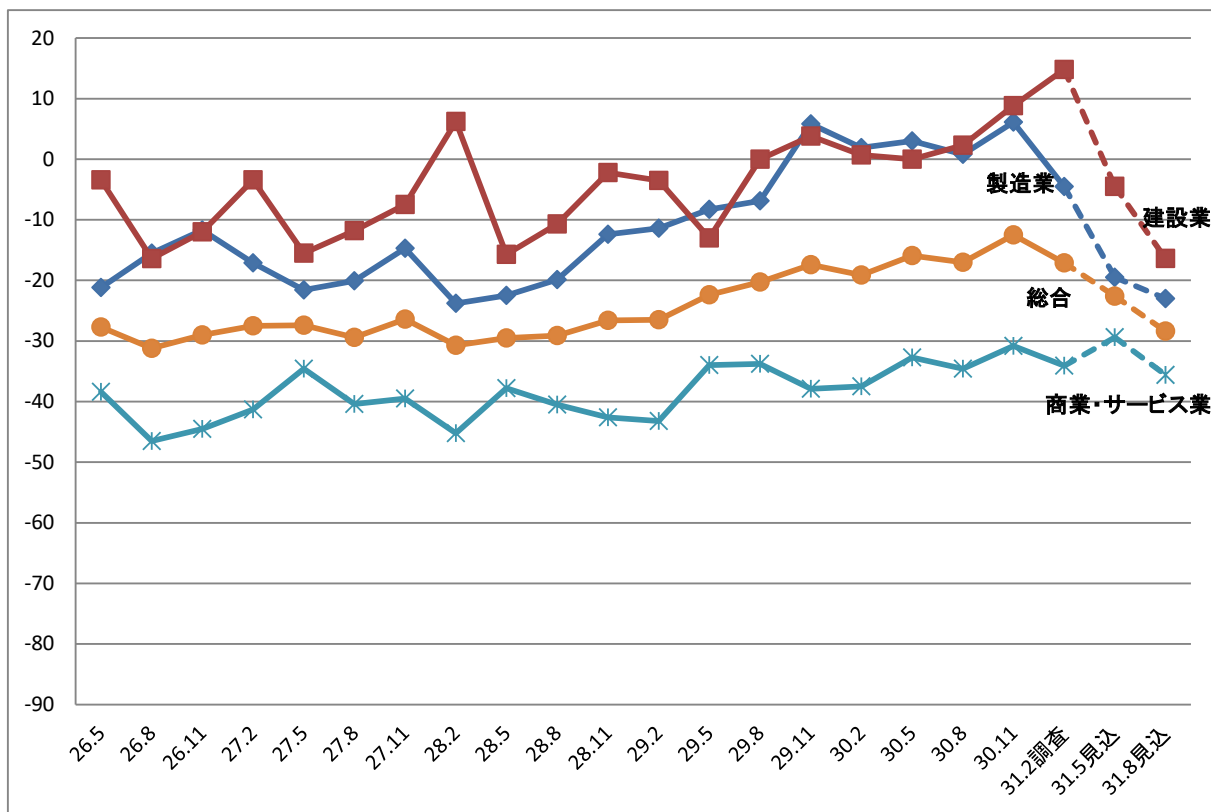
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湖	総合
回収数		266	137	109	105	100	92	110	99	1018
業況判断	現在の業況	-16.0	-16.8	-22.0	-17.3	-24.0	-11.1	-1.8	-30.2	-17.1
	3ヶ月後の業況	-22.0	-21.2	-32.1	-18.1	-24.7	-23.6	-14.8	-26.0	-22.6
	半年後の業況	-31.5	-25.6	-32.4	-27.9	-32.3	-28.4	-20.4	-25.8	-28.4
経営状況	売上	-21.0	-17.6	-20.8	-23.1	-23.0	-12.2	-15.5	-27.8	-20.2
	採算	-23.8	-32.1	-33.9	-27.9	-27.0	-22.0	-24.5	-34.4	-27.7
	引き合い／客数	-20.7	-14.8	-19.4	-20.0	-26.0	-23.9	-9.2	-16.5	-18.9
	単価	-12.2	-15.3	-23.4	-23.8	-15.0	-12.2	0.9	-24.5	-15.1
	仕入価格	-44.7	-43.8	-47.2	-41.9	-38.4	-43.5	-36.1	-49.5	-43.4
	資金繰り	-17.4	-11.7	-25.0	-19.0	-22.2	-19.6	-11.0	-26.8	-18.5
	残業	-3.8	-11.0	-19.6	-13.5	-19.2	-15.4	-1.9	-17.5	-11.1
	設備稼働	0.8	-12.9	-12.8	-7.5	-25.0	-7.5	-5.2	-10.8	-8.3
前期経営実績	売上水準	-5.3	-7.4	-19.3	-13.3	-19.0	3.3	-1.8	-19.4	-9.5
	利益水準	8.7	3.7	-8.3	-4.8	-8.0	-1.1	7.3	-9.4	0.4
	在庫	4.5	-6.0	1.9	0.0	-3.1	2.2	-1.9	4.2	0.6
	投資	-5.9	-8.9	-5.6	-11.8	-24.5	-8.7	-2.8	-7.2	-8.8
	雇用状況	-25.5	-31.4	-28.7	-30.4	-34.3	-33.0	-35.8	-24.0	-29.7

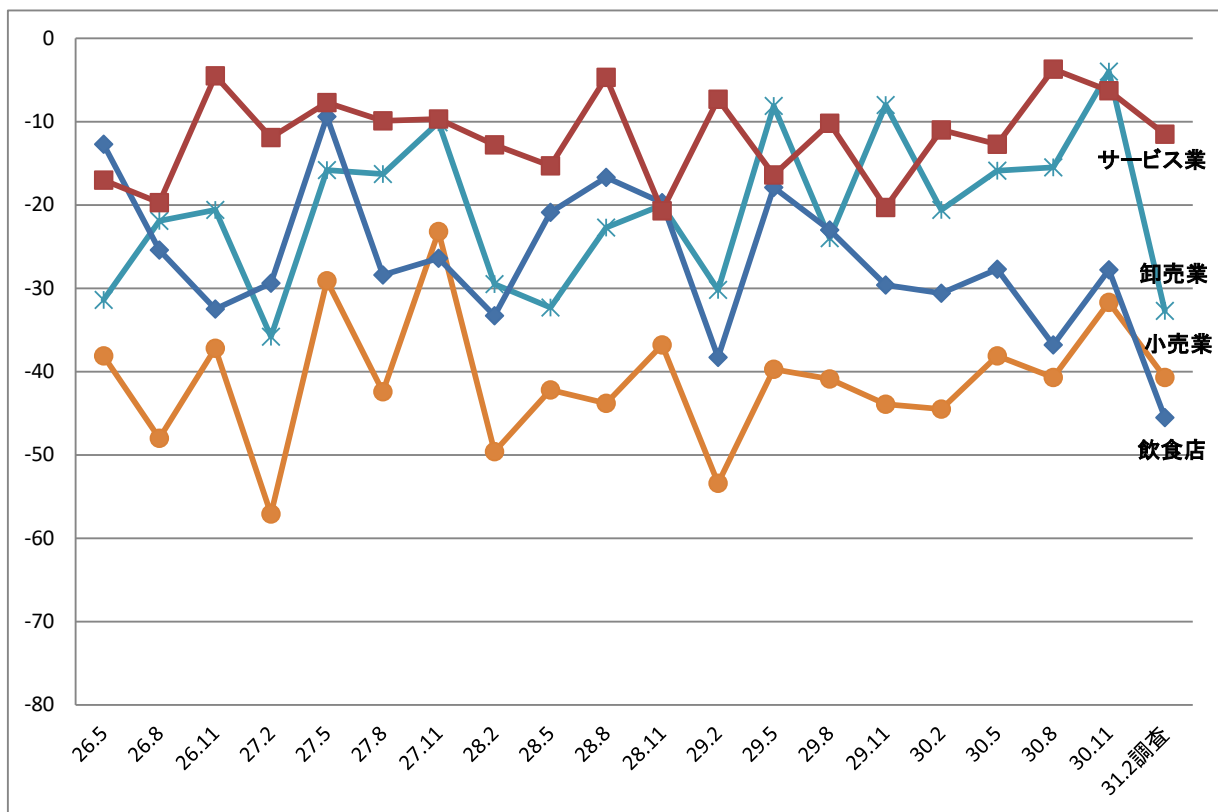
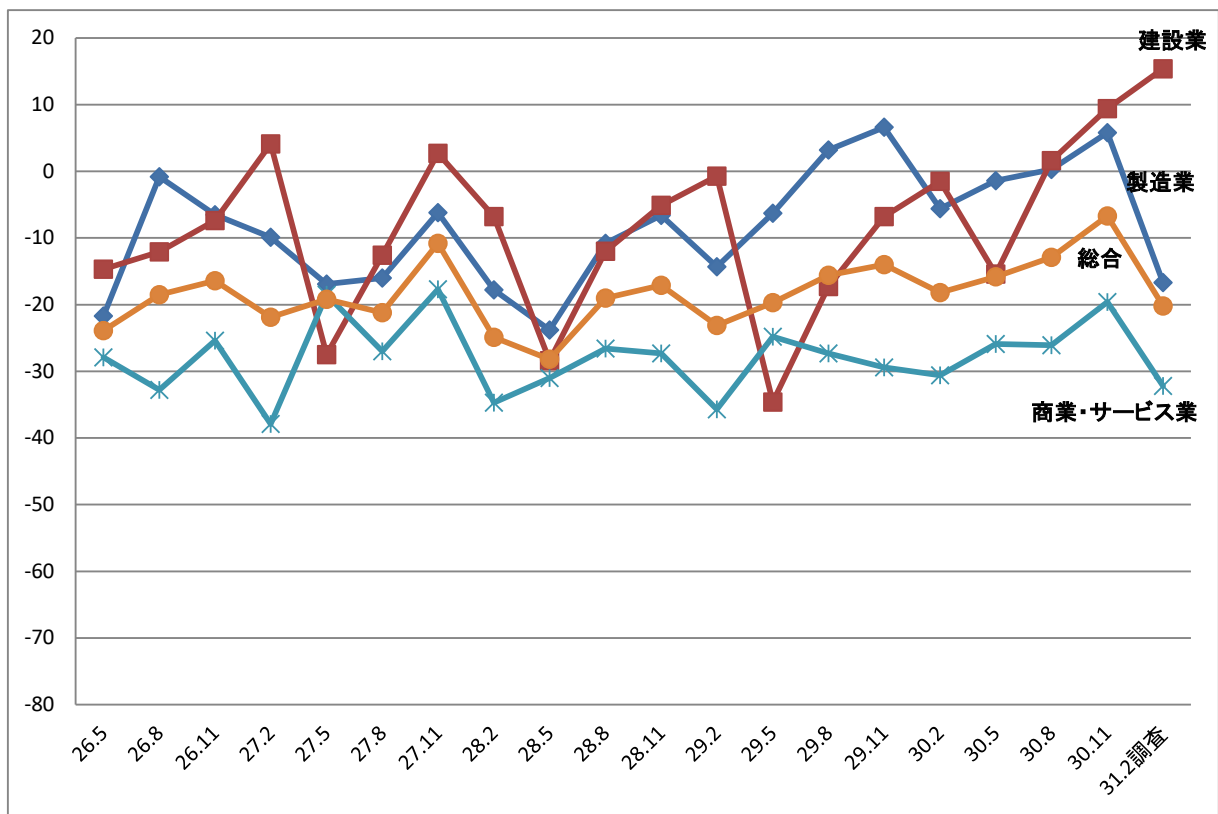
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		90	79	59	132	360
業況判断	現在の業況	9.0	-10.4	-3.4	-10.6	-4.5
	3ヶ月後の業況	-17.2	-20.8	-20.7	-19.7	-19.5
	半年後の業況	-23.3	-22.7	-27.1	-21.2	-23.0
経営状況	売上	-16.7	-6.3	-13.6	-24.2	-16.7
	採算	-20.0	-13.9	-27.1	-26.5	-22.2
	引き合い／客数	-14.4	-11.4	-15.3	-8.3	-11.7
	単価	-2.2	-5.1	-12.1	-6.1	-5.9
	仕入価格	-52.2	-50.6	-43.1	-55.7	-51.7
	資金繰り	-14.6	-2.6	-22.0	-17.4	-14.3
	残業	-4.5	-6.3	-8.6	-19.7	-11.2
	設備稼働	-7.9	-9.0	-13.8	-17.4	-12.6
前期経営実績	売上水準	15.6	-3.8	3.4	11.4	7.8
	利益水準	20.0	12.7	6.8	20.5	16.4
	在庫	1.2	5.1	7.4	10.0	6.4
	投資	5.6	0.0	0.0	0.8	1.7
	雇用状況	-40.0	-27.8	-35.6	-27.5	-32.0

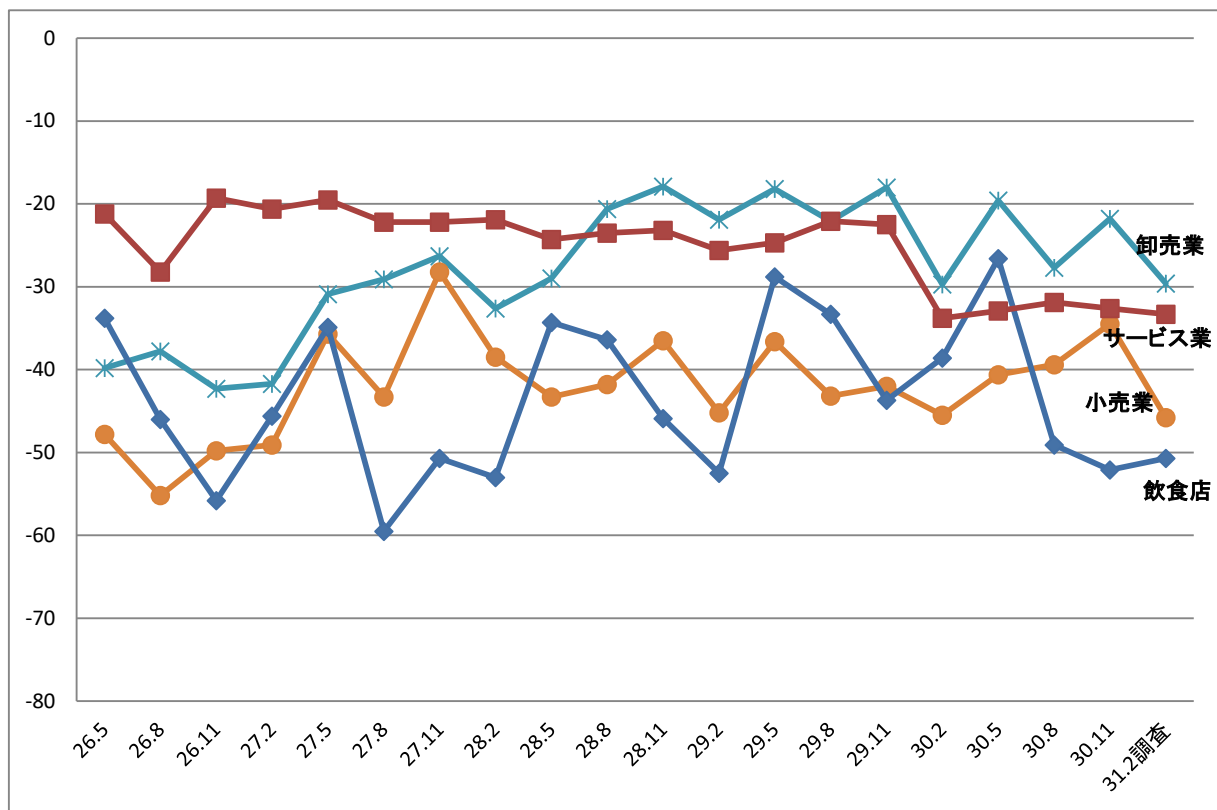
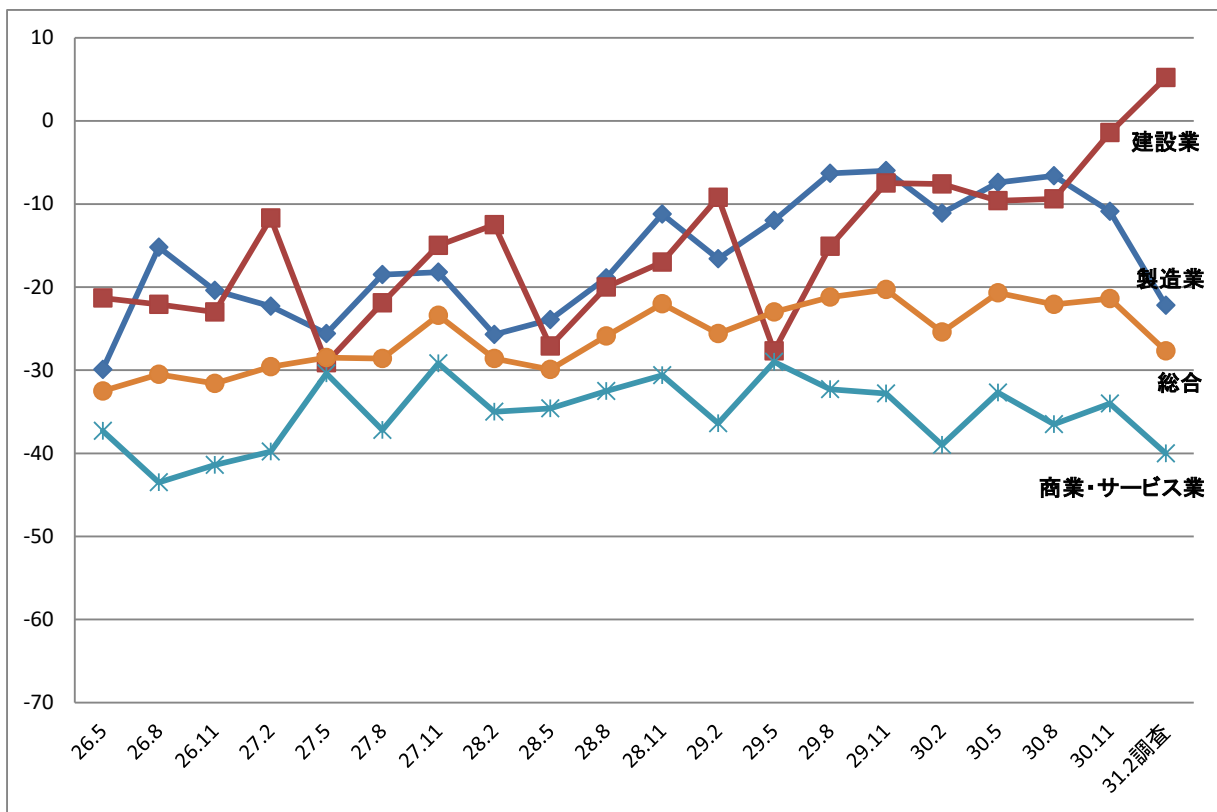
業況DIの推移



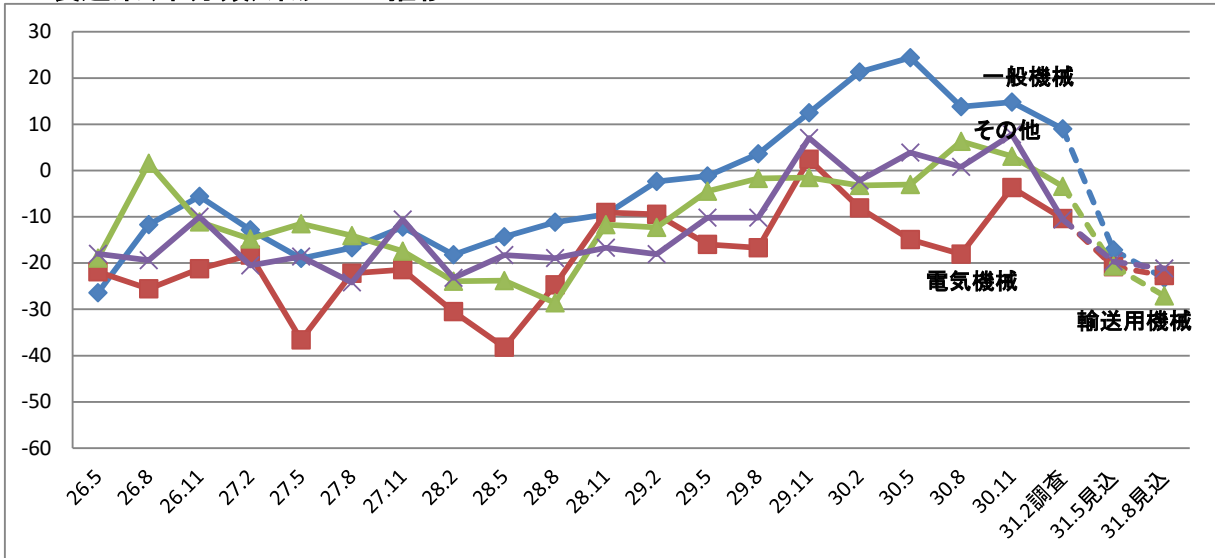
売上DIの推移



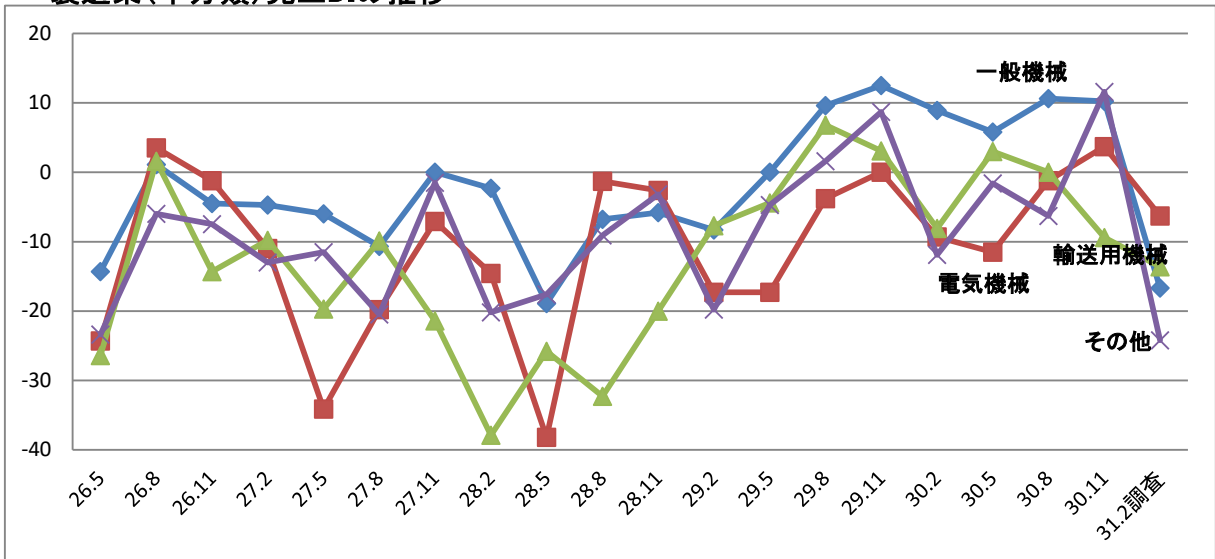
採算DIの推移



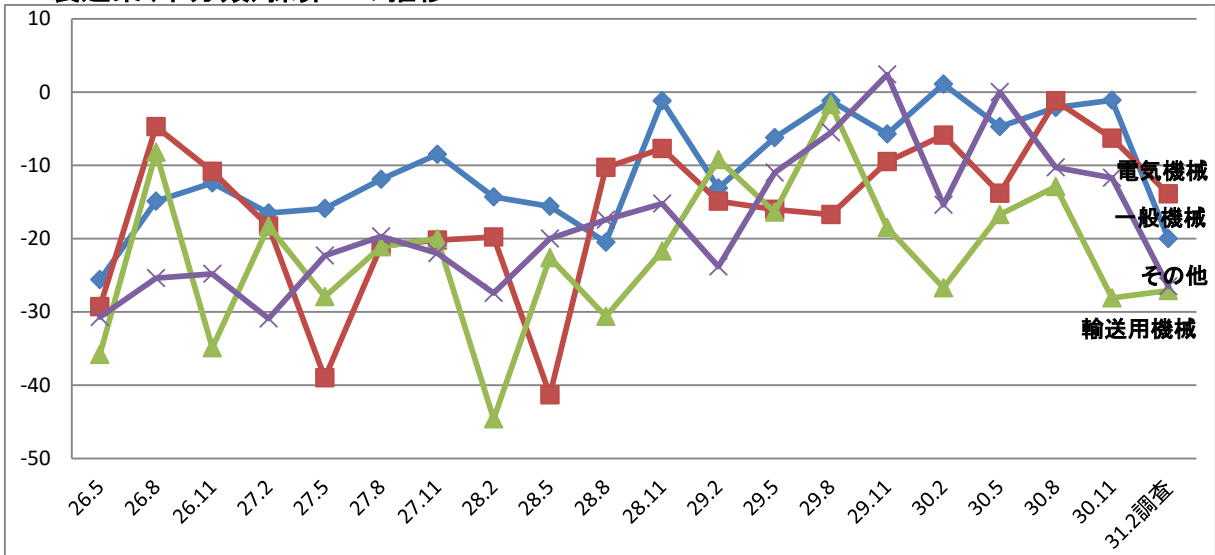
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

イギリスのEU離脱や中国の景気動向により、不安定要因があり、先の状況が不明。国内でも消費税のアップを控え、不安要因だけが目立ってきている。
オリンピック需要等により、生産が追い付かない状態です。今後、人手不足が足を引っ張ることで、生産頭打ちになることが懸念材料です。
中国の景況悪化で業界全体に影響が出ていると思う。見通し不明。
人手不足で受注対応できず。
海外の景況の悪化と、消費税引き上げの国内景気の悪化が懸念される。
引き合いは、10月～12月に比べると少し減ってきているが、予定通りであり、問題はないと言えるが、人手不足の解消が思うように行かない。働き方改革とあいまって人件費の上昇と設備の強化が当面の課題となる。
米中貿易摩擦の影響が不安、国内需要が弱い。
2月、3月の年度末は、特に人手不足。仕事はある。
家電製品については製品コストの上昇もあり利益の確保が難しい。
人材が足りない。募集をしてもこない。
人手不足により外注するがだんだん高くなる。専門性のある人が少ない。
人手不足により、受注機会を損失している。
先の見える数物の引き合いが減少しており、非常に不安定な状態。他業種にもアプローチをおこなっているが利益の出せる良い案件は少ない。自社の強みを生かして利益を出させる仕事を確保する必要がある。

<建設業>

近い将来は、人手不足と思うものの、（人数的、仕事的に）育てる余裕もなく、現状維持。
仕事が少ない為、受注額が安いので大変です。
1～3月は、毎年工場等の年度末により、改修工事等が発注されます。新年度になると仕事が減少するのが例年です。
見積引き合いはあるが、材料の値上げ、発注単価アップ、人手不足により施主予算に合わない。受注のためには、利益を下げなければ厳しい状況。見通しは、人手不足、材料値上げで、良いとは思えない。
働き方改革が施行され、残業・有給休暇等原価を圧迫する見込み。
若い人材が入って来ないので外国人にたよる必要が有るかも。
消費税10%後の10月以降が悪いと思う。
今は消費税10%に対する駆け込みが多いのだと思いますが、その後は悪くなると思っています。
受注のためには、利益を下げなければ厳しい状況。見通しは、人手不足、材料値上げで、良いとは思えない。
米中貿易摩擦がどうなるかによって今後の状況が心配です。
仕事は増えるが、人手不足で現場を受けきれない。

<卸売業>

顧客の高齢による廃業、及び、人材不足。
賃金up・コスト高で外国製品に勝てるわけない。
客数の増加（同業他社の廃業）により、売上増。相変らず、先行きは見通し不明。
人口減、給料の増加は認められず、諸物価の上昇全て悪材料ばかり。
仕入価格の上昇分を、販売先に転嫁できない（値上出来ない）、利益悪化。
人手さえ揃えば売上・利益とも拡大できる。
仕入価格の上昇、人手不足、賃金の上昇、働き方改革による休日の増加。これらの要因がきびしい。
店舗販売の他、ネット売上が上昇している。年明けは例年売上が減少する。
雇用状況は適正に転じた。また、大型物件も年度末に向けて順調に成約しており、利益は黒字に転じる見込。

<小売業>

最低賃金が毎年法外に上がり続けて利益率が下がりパートの確保も厳しくなっている。業績（売上）は天候次第、卸部門は不調。
原材料の高騰、運賃、諸経費のコストアップにより値上げが多い。
客単価は上がっているものの通年の売上自体が減少しているので経営は厳しい状況です。ファッションに興味が無くなりアパレル業界同様減少傾向にあり、将来が不安です。
10月からの消費税増税による駆け込み需要が増大する傾向であるが増税後の落ち込みが不安である。
原油価格の上昇で赤字になっていましたが、今年から値上げをしたのと、原油価格が毎月下落を続けているので急速に収益改善できそうです。
物流費の上昇により、利益が減っている。
ますます悪化する。消費人口の減少。
とにかく、町に人がいません、店舗として辛いです。男女共同参画の弊害か、景気拡大、戦後最長と言うけれど、アベノミクス景気の実感がわかりません、今後小売業はどうなるのか？心配です。
毎年業績は悪化傾向にある。消費税upによりさらに厳しい状況を予想。
国の経済政策の見通しが必要。
昨秋TVの番組で取り上げられ、新規来店客が増加しました。今後も地域密着に注力し、景気に左右されない体力をつけたいと思います。
インターネットの普及により今頃流通していた商品が流れなくなり単価も厳しくなっている。
大口の得意先が増えましたが、単価が低いので利益は不変気味です。
デフレが続いている。
業種としては天候に左右されることが多くどうにもならないこともあります。一喜一憂することなくネット通販も視野に入れて、取り組みを考えています。
お客様の高齢化で来店客の減少、新規客はほとんどいない。本年の消費税10%へのアップで年金生活者の方の買い控えが増加すると売上がもっと減少しそうで心配。

<飲食店>

カードの使用が増えているのでカード手数料の負担が多くなっている。
インスタや地方紙の利用で頑張っているのですが、ランチはまあまあ、ディナーは来客人数が少ないです。
売上は増えてきたが、材料仕入が半期毎に上ってきており資金繰りは厳しい。カード利用が毎月のように増えてきたので、5日毎の振込に変更し、何とかやりくりをする状態。
仕入材料の値上げが、続いている。今後が怖い。
消費税10%後ますます景気悪くなると思う。
消費税が上がってくると、どうなるかわからず不安。
カードの使用が増えているのでカード手数料の負担が多くなっている

<サービス業>

材料費の値上がり分を代金を加算して補っています。今の所影響はないようです。得意先の方が亡くなったり高齢化が問題になると思います。
採用難による人手不足、時給上昇により利益に影響が出始めている。
労働関連法令や、派遣法の改正により、売上、利益がマイナスの見通し。
人件費等のコスト増、売上の伸び悩み。
雇用状況が良くない。
大手決算発表後以降は、景気の減退と悪化が予想される。
オリンピック需要もあるが、反面開催期間中の施工中止等、当社としてはマイナスも大きい。
少子化による若者客の減少。高齢者、年金生活者は利用しないで、生活防衛している。料金が高額でも、良い物、納得できる価値には金を惜しまない。貧富の差が激しくなっている。低額な衣料品のつくり過ぎが良くない。
競合他社が多くなって来ていること。独自色を高めたい。PR強化。